

NISA様向け 「データサイエンティスト育成」 補助資料

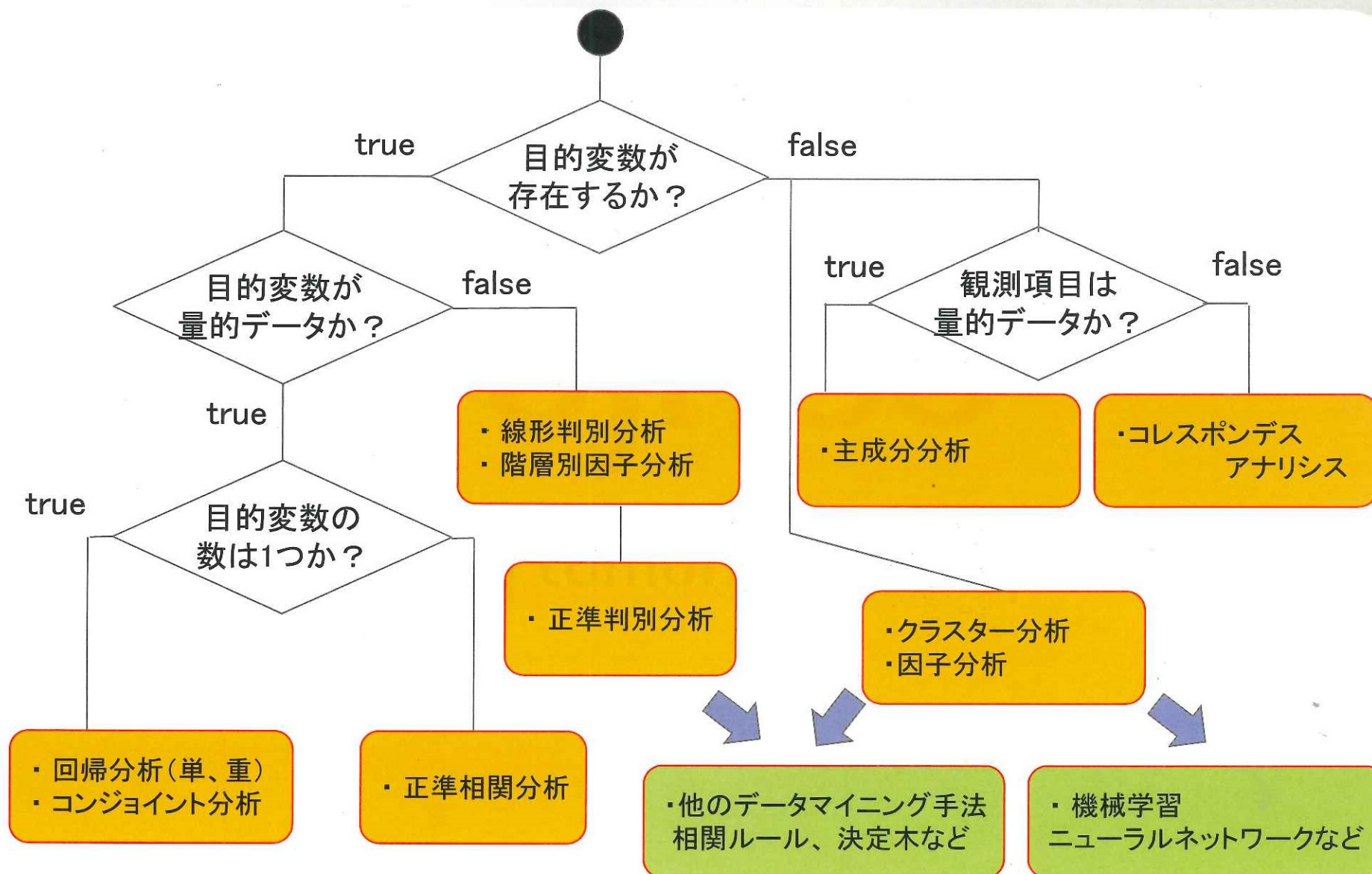
2019年1月5日

富士通九州システムズ 教育ソリューション部

1. データ解析手法の目的

NO	目的名	目的
1	予測	サンプルデータから何らかの予測を行う場合に使用します。予測するデータを目的変数、予測に使用するデータを説明変数として、目的変数を計算する式を説明変数から作成し、具体的な説明変数値を代入して目的変数値を予測します。代表的な予測に回帰分析、正準相関分析があります。
2	判別	予測における目的変数が量的変数ではなく、質的データ(ランク、良し悪し、快適・不快など)の場合に使用します。説明変数から質的な目的変数の割合や分類を判別する手法です。代表的な判別に線形判別分析、正準判別分析があります。
3	構造分析	サンプルデータに潜む構造を見つけ単純化する場合に使用します。サンプルデータを互いに独立する変数の組に変換したり、サンプルデータの次元を減らして単純化する手法です。代表的な構造分析には、サンプルデータが量的データなら主成分分析、カテゴリーデータならコレスポンデンスアナリシスがあります。
4	構造探索	サンプルデータを何らかの基準でグループに分けたい場合に使用します。サンプルデータ間の類似性または非類似性を何らかの基準によって分類する方法です。代表的な構造探索にはクラスタ分析があります。

2. データ解析手法の目的別分類



様々なデータ解析手法から活用される